



えんだより

令 6 年 1 月 号
船小屋保育園



子どもたちの『おめでとう』の元気な声とあいさつで、新年が始まります。
 家族団らん、親戚等との楽しい時間を過ごせたことでしょう。
 子どもたちにとっては、さまざまな体験ができ、楽しいお正月休みだったと思います。
 いよいよ今年度も残すところ3か月となりました。この時期は各クラスとも大切な時期です。
 職員一同しっかり寄り添い見守ってまいります。昨年同様、保護者の皆様にはご理解、
 ご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

= 1月の主な行事予定 =

1月20日(土) チューリップ・あか組 保育参観

0～1歳のせきに注意! ぜんそく性気管支炎

0～1歳児は気管支が細いうえに、上手にたんを出すことができないため、気管支にたんが絡まって炎症を起しやすくなります。これが「ぜんそく性気管支炎」です。呼吸するとゼロゼロと音がしたり、せき、発熱などの症状が出ます。熱があって息苦しそうときや、せきがひどくて眠れないときは、夜中であってもすぐに受診してください。

室内の加湿と換気、こまめな水分補給を心がけて、せきを楽にしましょう。



知っておこう

おう吐物の処理

冬場に流行するウイルス性胃腸炎は、ノロウイルスやロタウイルスなどの感染によって起こります。家庭でも二次感染予防のために、おう吐物の処理にご留意ください。

- ① 窓を開けて使い捨ての手袋とマスクを着け、使い捨ての布などでおう吐物を周辺からふき取る。
- ② 次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）を薄めた消毒液で、おう吐物のあった部分を再度ふく。汚れた物はすべてポリ袋に入れ、消毒液をかけてから密封して捨てる。
- ③ おう吐物の付いた服は、85℃以上の熱湯に1分間つけてから洗濯する。
- ④ さらに乾燥機にかけたり、アイロンをかけたりますと、熱に弱いノロウイルスは死滅しやすい。



使い捨てカイロにも気を付けて!

低温やけどに注意しましょう

低温やけどは、急激な熱さを感じにくいために、ゆっくりじっくり起こるやけどです。お風呂のお湯より少し高いくらいの温度でも、長時間触れていることで、皮膚の内部に大きなダメージが加わります。皮膚が赤くなる、水ぶくれができるなどの比較的軽い症状から、皮下組織が壊れるくらい重症のやけどになってしまう場合もあります。
 温度差を感じにくい高齢者や子どもに多く起こります。はれや赤み、痛みが長引くときは必ず受診しましょう。

低温やけど

貼るタイプのカイロ

必ず衣類の上に貼り、同じ箇所には長時間当てないこと。貼ったまま寝てしまうのもNG。

くつした用のカイロ

くつしたを脱いだ状態で使ったり、体の他の部位に使うと高温になる危険性が。

湯たんぽ、あんか

厚手のカバーに包んでも、低温やけどの危険が。寝る前に入れて寝具を温めておき、寝るときには出しましょう。

ホットカーペット

長時間横になったり、眠ったり、座ったままの状態していると低温やけどになることも。

